

学習院輔仁会

明治22年(1889)三浦梧樓院長は、学習院の創立当初から多くあった運動関係をはじめとする学生の小団体を一つにまとめようと、学生有志の活動を包括する校友会組織として「学習院輔仁会」を創設した。会名は『論語』顔淵篇の「君子以文会友、以友輔仁」(君子は文を以て友を会し、友を以て仁を輔く)による。4月6日の開会式前日に会則が定まり、編集部・演説部・運動部・英語部・仏語部・独語部の六部が発足した。輔仁会では、各部主催の行事のほか、全体の行事として輔仁会大会と陸上運動会が行われた。

同23年6月、編集部によって発行された『学習院輔仁会雑誌』(以下、『輔仁会雑誌』)は、全国諸学校の校友会雑誌のうち最も古いものの一つであり、その刊行は現在まで続いている。創刊当初の内容は、教員による論考、学生の和歌・漢詩などの文芸作品や論説、意見・提言・報告文が主流だったが、のちに紀行文や海外文学の翻訳・紹介を掲載するなど、形式や内容を変えていった。游泳・軍事演習・満韓旅行についての詳細記事や、雑報欄には学校行事をはじめ、各部の活動や大会の報告が記録されており、当時の学校生活の様子を伝える貴重な資料となっている。

学習院出身の『白樺』同人たち

明治43年(1910)4月に創刊された文芸雑誌『白樺』。その第1巻第1号の目次に名を連ねる武者小路実篤、児島喜久雄、木下利玄、郡虎彦、里見弴、有島武郎、志賀直哉、正親町公和をはじめとする『白樺』同人の多くは、四谷の学習院で学生生活を過ごした。



高等学科卒業前の記念写真 明治39年(1906)〔学習院アーカイブズ蔵〕
前列左から2人目より志賀、細川、木下。前列右端に武者小路。

当時の『輔仁会雑誌』を見ると、作文や和歌などの文芸作品以外にも、各部の例会や輔仁会大会などの活動記録においても彼らの名前が随所に確認でき、様々な場で活躍していた様子がうかがえる。彼らは編集部や邦語部など輔仁会の活動を通して、同級生だけでなく先輩後輩との学年を超えた交流がなされ、その親交は卒業後も続いたのである。

四谷校地時代の学習院

M 41	M 40	M 39	M 38	M 37	M 36	M 33	M 32	M 31	M 30
8月、 完了 中等・高等学科の目白校地への移転	4月、 迪宮裕仁親王(のちの昭和天皇)初等学科入学(T3年卒業)	1月、 乃木希典が第10代院長に就任 (T元年9月)	7月、 目白校舎新築工事開始	4月、 華族女学校を学習院に併合し、学習院女学部と改称	1月、 山口鏡之助が第9代院長に就任 (M40年1月)	9月、 華族女学校を学習院に併合し、学習院女学部と改称	4月、 華族女学校を学習院に併合し、学習院女学部と改称	1月、 華族女学校を学習院に併合し、学習院女学部と改称	7月、 華族女学校を学習院に併合し、学習院女学部と改称

【主要参考文献】『学習院の百年』(1978年)、『学習院百年史』(1981年) M=明治、T=大正

回覧雑誌『暴矢』(のちの『望野』) 明治41年7月~同42年4月

- ◆志賀直哉(1883-1971)
虎ノ門時代の明治22年(1889)に予備科6級(のちの初等学科1年)に入学。同28年中等学科に進学、2年の時に有島生馬らと「儉遊会」(のちの「睦友会」)をつくり、回覧雑誌を発行する。同35年2度目の落第で6年の正親町公和・木下利玄・細川護立・武者小路実篤と同級生となり、同36年に進学した高等学科もともに過ごし、同39年に卒業した。文芸活動に熱中するだけでなく、棒高跳び・ラグビー・ラクロス・競漕・陸上競技にも取り組み、同34年の春季競漕会では優勝、同35年の柔道紅白勝負では三人抜きをしている。
- ◆武者小路実篤(1885-1976)
明治24年(1891)に兄公共も通う初等学科に入学し、修了時の成績は49人中3番で、褒詞を受けた。同30年中等学科、同36年高等学科に進学。志賀とともに邦語部に所属し委員を務めるほか、年に数回図書館で行われる例会の演説等に度々登壇。『輔仁会雑誌』にその記録や批評が記されている。同40年に正親町(公)・木下・志賀と合評会「十四日会」を結成、翌年に『暴矢』を発行する。
- ◆木下利玄(利玄)(1886-1925)
明治24年(1891)に初等学科に入学、武者小路と同級であった。同30年中等学科に進学、寄宿舎主一館で6年間を過ごす。同32年佐佐木信綱の竹柏園に入門。5年の時に正親町(公)・細川らと「暁会」をつくり、回覧雑誌を発行。同36年高等学科に進学、『輔仁会雑誌』の編集部委員に選ばれる。同誌には「はるさむ」「里果」という筆名も用いて数々の和歌を発表している。成績優秀で、中等学科1・3年は優等賞、高等学科3年は褒状で修了している。
- ◆正親町公和(1881-1960)

回覧雑誌『麦』 明治41年10月~同42年10月

- 山内英夫(里見弴)(1888-1983)
有島武郎・壬生馬は兄。明治29年(1896)に初等学科3年に編入。同33年中等学科に進学、正親町実慶・児島喜久雄・園池公致・田中治之助とは同級であった。壬生馬を通して親交のあった志賀の「睦友会」をまねて、児島らと「壬寅会」(のちの「詢友会」)を結成。同39年高等学科に進学、『輔仁会雑誌』に「伊吾」の名でモーパッサンやチェーホフの翻訳などを発表した。3年の時に『望野』に刺激され、児島・園池らとともに『麦』を発行する。
- 園池公致(1886-1974) ○正親町実慶(日下諒)(1887-1938)
- 児島喜久雄(1887-1950) ○田中治之助(雨村)(1888-1966)

回覧雑誌『桃園』 明治42年2月

- 柳宗悦(1889-1961)
明治28年(1895)初等学科に入学。同34年中等学科に進学し、同39年に正親町(実)・郡とともに『輔仁会雑誌』編集部委員となる。同40年高等学科に進学し、神田乃武・鈴木大拙・西田幾多郎らに学ぶ。同42年に先輩らの影響を受け、郡と『桃園』を発行。初等学科からほとんどの学年を優等賞・褒詞・褒状・華族会館賞牌(同38年以降)で修了するなど、成績優秀であった。同43年、恩賜の銀時計を得て卒業。卒業式では「国史講義(国文々学史の一節、古今和歌集の選者及其特色に就て)」と題し、皇太子御前講演を行った。
- 郡虎彦(1890-1924)

有島武郎(1878-1923) 有島壬生馬(生馬)(1882-1974) 細川護立(1883-1970) 長與善郎(1888-1961)

月刊雑誌『白樺』 明治43年4月~大正12年8月

(助教 谷嶋美和乃)

概略年表

M 29	M 28	M 27	M 26	M 25	M 24	M 23	年
12月、 物品取扱部を設置	9月、 白樺会則改正(文芸部・体育部)	7月、 近衛篤磨が校地の北豊島郡高田村(目白)移転案を宮内省に上申	10月、 別科を大学科と改称 学習院独自の読本『学習院初学教本』を発行	10月、 宮内省が華族就学規則を改正 田中光頭が第6代院長に就任 (M28年3月)	2月、 「教学聖訓」を教職員・学生に配布 岩倉具定が第5代院長に就任 (M25年10月)	6月、 第一回輔仁会大会開催 『初等学科習字帖』を発行(学習院発行の最初の教科書。以後各課の教科書を順次発行)	出来事

(作成:リサーチ・アシスタント 小口康仁)